

日本語学習者における「テシマウ」の使用の特徴

: YNU コーパス、及び 8 つのメールタスクデータを用いて

金庭久美子（立教大学）・金蘭美（横浜国立大学）・曹娜（上海外国語大学）

キーワード：テシマウ、完了、残念、YNU コーパス、花便りデータ

1. はじめに

日本語教育において初級で扱う補助動詞には「テミル」「テアル」「テシマウ」「テオク」などがあるが、このうち本研究では「テシマウ」に焦点を当て、中級以上の学習者が初級で学習した「テシマウ」をどのように用いているのかを見ることにする。本研究では、YNU 書き言葉コーパス¹⁾（以下 YNU コーパス）、ならびに、花便りデータ²⁾における「テシマウ」の使用状況について分析を行い、その結果をもとに「テシマウ」の指導方法について提案することを目的とする。

2. 先行研究

「テシマウ」の用法について、友松他（2007）は、「全部、完全に、早く」済ませるということを心理的に強調する「完了」と、話し手が「失敗した・残念だ・困った」と言う気持ちを表す「残念」があるとしている。さらに、松岡他（2000）は「テシマウ」は「完了」を表す形式の一つであるとし、「無意志動詞+テシマウ」のときは後悔の意味になり、「～テシマオウ」のときは完了の意味になるとしている。

一方、学習者による「テシマウ」の誤用についての研究は市川編（2010）を除くと、管見の限り見当たらず、学習者の「テシマウ」の使用状況は知られていないようである。

中国語では、「完了」「後悔、残念」の意味を表す「テシマウ」に相当するものがなく、翻訳する場合、「完了」や「過去」を表す「了」で表現する。例えば「死んでしまいましたか。本当に気の毒ですね。（死了吗？真是可怜。）」（『日語総合教程』2014）のように表す。

一方、韓国語の「動詞語幹+아/어 버리다 (a/eo beorida)」は補助用言として、日本語の「テシマウ」と類似しており、この補助用言に前接する動詞の行為がすでに終わったことを表す。その結果、話し手が残念に思ったり、負担が軽減されたと感じたりすることを表すことができる³⁾。

3. 調査

3. 1 使用データと調査対象者

本研究では、YNU コーパス、ならびに、花便りデータを用いる。これらの資料を用いるのは、「テシマウ」の使用について複数の場面・状況からみることができるとためである。

YNU コーパスでは、<表 1>のタスクを扱っている。本研究では YNU コーパスにおける日本人大学生（30 名：以下 J①）と同大学に所属する留学生（中国語母語話者 30 名：以下 C①、韓国語母語話者 30 名：以下 K①）を対象に、表 1 の 12 のタスクを用いて計 1080 編（母語別各グループ 360 編ずつ）における「テシマウ」の使用についてみることにする。

次に、花便りデータでは、<表 2>のタスクを扱っている。本研究では、花便りデータにおける日本人大学生（30 名：以下 J②）と、外国語として日本語を学ぶ中国語母語話者（30 名：以下 C②）、韓国語母語話者（30 名：以下 K②）を対象に、表 2 の 8 つのタスクを用いて計 720 編（母語別各グループ

240 編ずつ) における「テシマウ」の使用についてみることにする。

<表1> YNU コーパスのタスク (☑はメールによるタスク)

1. ☑面識のない先生に図書を借りる	7. ☑先生に観光スポット・名物を紹介する
2. ☑友人に図書を借りる	8. ☑先輩に起こった出来事を友人に教える
3. レポートでグラフを説明する	9. 広報誌で国の料理を紹介する
4. ☑学長に奨学金増額の必要性を訴える	10. ☑先生に早期英語教育の意見を述べる
5. 入院中の後輩に励ましの手紙を書く	11. ☑友人に早期英語教育の意見を述べる
6. 市民病院の閉鎖について投書する	12. 小学生新聞で七夕の物語を紹介する

<表2> 花便りデータのメールタスク

A 花見の持参品の友人への連絡	E 翻訳の依頼に対する友人への断り
B 日本留学についての先生への報告	F 夏休みの訪問に対するお母さんへの予定伺い
C 来日遅れの事務員への連絡	G 忘れ物保管の管理人へのお願い
D 誕生日のお祝いに対するお母さんへのお礼	H 備品持ち出しの管理人へのお詫び

3. 2 調査結果

調査の結果、表3、表4のようになった。YNU コーパスに見られた「テシマウ」を表3、花便りデータに見られた「テシマウ」を表4に示す。

<表3> YNU コーパスにおける「テシマウ」

	タスク内容	日本 J①	中国 C①	韓国 K①
task01	貸出依頼 (先生)	0	1	0
task02	貸出依頼 (友人) *	0	1	4
task03	グラフ説明	4	3	3
task04	奨学金要望書	7	5	4
task05	見舞いの手紙	17	11	12
task06	投書	37	7	5
task07	名所の紹介	1	1	0
task08	出来事描写*	23	19	36
task09	料理紹介	3	2	0
task10	意見 (先生)	10	0	1
task11	意見 (友人) *	7	6	8
task12	七夕物語*	91	34	36
	計	200	90	109

<表4> 花便りデータにおける「テシマウ」

	タスク内容	日本 J②	中国 C②	韓国 K②
taskA	持参品の連絡	0	0	0
taskB	留学の報告	0	0	0
taskC	渡日遅れの問合せ	3	4	0
taskD	贈答品のお礼	1	1	0
taskE	翻訳依頼の断り	1	1	0
taskF	来日のお知らせ	1	0	0
taskG	忘れ物保管の依頼	24	18	12
taskH	備品持出の謝罪	29	3	13
	計	59	27	25

* 「チャウ」を含む

<表3>を見ると、YNU コーパス全体の「テシマウ」の使用数は、J①は200件、C①は90件、K①は109件となっており、C①とK①は、J①の半数程度しか使っていないことがわかる。一方、<表4>を見ると、花便りデータ全体では、J②は59件、C②は27件、K②は25件で、これらのタスクにおいてもC②、K②の「テシマウ」の使用は少なくJ②の半数程度である。このことから、「テシマウ」はJ①、J②に比べ、C①、C②やK①、K②あまり使用していないことがわかる。

また、タスク内容によって、使用数に差が見られる。J①やJ②が「テシマウ」を多く用いたのは、表3ではtask08「出来事描写」、task12「七夕物語」の記述である。また、task06「投書」においても多くみられる。表4ではtaskG「忘れ物保管の依頼」とtaskH「備品持出の謝罪」において多く見られる。これらのタスクでは、C①、C②、K①、K②も「テシマウ」を用いるが、J①やJ②の使用状況と異なる。

3. 3 各タスクに見られる「テシマウ」

次に各タスクにおいて、「テシマウ」をどのように用いたのか、具体的な記述についてみる。

YNU コーパスで、最も多く「テシマウ」を使用したタスクは task12「七夕物語」の記述で J①91 件、C①34 件、K①36 件であった。例 1 から例 3 は牛が病気になったことについて記述する箇所で、書き手がそのことを望ましくないと考え「テシマウ」を用いて表した文である。

例 1 J①「ひこぼしが世話をしていた牛は病気になってしまいました。」(J023)

例 2 C①「「牛郎」は牛をちゃんと育てないから、牛は病気になってしまった。」(C020)

例 3 K①「ギョンウが世話をしていた牛たちが病んでしまい死んでいきました。」(K038)

例 1 のように「病気になってしまう」と記述したのは J① の場合 J023 含め 10 件であったが、C①も K①も例に挙げた 1 件ずつであった。さらに、task012 の中で「病気になってしまう」のような「ナツテシマウ」のパターンを見ると、J①は 91 件中「ナツテシマウ」が 47 件で、全体の半数以上見られた。それに対し、C②は 34 件中 7 件、K②は 36 件中 13 件しか「ナツテシマウ」を用いていなかった。

一方、花便りデータのタスクのうち、最も多く「テシマウ」を使用したタスクは taskG「忘れ物保管の依頼」のタスクで J②24 件、C②18 件、K②12 件であり、メールの書き手本人が「カバンを置き忘れた」ことを伝える際に用いている。taskH「備品持出の謝罪」のタスクでは J②29 件、C②3 件、K②13 件であり、メールの書き手本人が「リモコンを持ち帰った」ことを伝える際に用いている。

J②、C②、K②を比較すると、使用した表現も異なっている。表 5 はタスク G と H における、「テシマウ」に前接する動詞の種類を比較したものである。

<表 5> 「テシマウ」に前接する動詞

taskG 忘れ物保管の依頼		taskH 備品持出の謝罪	
J② 24 件	「置き忘れてしまう」12 件、 「置き忘れて来てしまう」2 件 「忘れて来てしまう」2 件 「忘れ物をしてしまう」4 件 その他 4 件	J② 29 件	「持って帰って来てしまう」7 件 「持ち帰ってしまう」7 件 「持って帰ってしまう」5 件 「持って来てしまう」3 件 「入ってしまう」2 件 その他 5 件
C② 18 件	「忘れてしまう」16 件、 「落としてしまう」「残ってしまう」各 1 件	C② 3 件	「持ち帰ってしまう」「残ってしまう」「見 てしまう」各 1 件
K② 12 件	「置いてきてしまう」3 件 「忘れてしまう」「入ってしまう」各 2 件 「置き忘れてしまう」「忘れ物をしてしま う」「行ってしまう」「来てしまう」「戻っ てしまう」各 1 件	K② 13 件	「持って来てしまう」6 件、 「入ってしまう」2 件 「持ち帰ってしまう」「持ち出してしまう」 「戻ってしまう」「気づいてしまう」「かけ てしまう」各 1 件

表 5 の taskG では J②には前接する動詞にバリエーションがあるが、C②は「忘れてしまう」が 18 件中 16 件で多かった。K②は「テシマウ」に前接する動詞が J②のものと異なっていた。さらに、表 5 の taskH においても、C②は 3 件で少なく、K②も前接する動詞が J②のものと異なっていた。

4. 考察

調査結果より、全体的に日本語母語話者に比べ、日本語非母語話者の「テシマウ」の使用が少なく、非母語話者の母語に「テシマウ」に相当する類似表現があるかどうかにかかわらず、うまく使えていないことがわかった。では、どのような指導を行うと、日本語母語話者の使用に近づけるのだろうか。

まずは、指導の際に示す談話を考慮すべきである。YNU コーパスの task12 は物語の描写であるが、登場人物の行動や状況が望ましくない際、心情を添えて「テシマウ」を使っている例が J①に見られた。

task08 も同様である。また、task06 の場合、将来の望ましくない結果を予想する際に「テシマウ」を使っている。また、花便りデータの場合、J②は taskG（置き忘れた）や taskH（持ち帰った）は書き手自身の失敗について書く際に後悔の意味を込めて「テシマウ」を用いている。したがって、「テシマウ」が自然に使えるようにするには、物語や事実を記述するタスクを与え、望ましくないことについて説明する際に「テシマウ」を使うように指示を出すと思われ。また、依頼や謝罪のメール文のタスクを与え、書き手の過失を説明する際に「テシマウ」を使うように指示を出すと思われ。

次に、「テシマウ」に前接する動詞の指導である。初級では「本動詞+テシマウ」のパターンでの例文提示が行われ、特に「忘れてしまう」は導入の際に提示されている。taskG の C②の結果を見ると「忘れてしまう」の使用が多く、「忘れてしまう」をセットで覚えて使っている可能性がある。一方、J①にもセットの表現が見られた。YNU コーパスでは「(マイナス評価の表現+) ナッテシマウ」の使用が多く、特に J①の task12 の七夕の記述では、「病気になってしまった」「できなくなってしまう」のように用いている。このような表現は初級の導入時から示しておくに役立つのではないだろうか。

さらに、状況に応じて「複合動詞+テシマウ」を指導すべきである。J②は taskG では「置き-忘れて-きて-しまう」、taskH では「持って-帰って-来て-しまう」のように用いる者が C②や K②より多く見られた。このような「複合動詞+テシマウ」を指導するには、単文での練習よりも状況を設定したタスク練習のほうが自然に産出できるのではないかと思われる。

5. おわりに

以上のように、初級で学習した項目であっても日本語非母語話者は「テシマウ」を適切に使えるわけではないようである。「テシマウ」を自然に使えるようにするためには、描写、物語などの談話の中で望ましくない状況を記述させる練習、書き手の過失を述べた後で依頼や謝罪を述べるようなメール文の練習、「ナッテシマウ」や「複合動詞+テシマウ」の練習が必要になると考えられる。

注

1) YNU コーパスは、金澤裕之編 (2014) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房のデータである。YNU コーパスの学習者は全体の結果をもとに上位群・中位群・下位群に分けている。

2) 花便りデータは、メール文の自動評価のために収集したデータである。そのデータは「花便り」<http://hanadayori.overworks.jp/>において基礎データとして利用している。タスクの詳細は金庭(2018)を参照のこと。

3) 韓国国立国語院オンライン版の辞書『国立国語院標準国語大辞典』「머리다」(beorida) の項より引用。

<https://stdict.korean.go.kr/> (2019.9.20 アクセス)

謝辞 本研究は科学研究費基盤研究(C)15K02658 及び 19K00734 の助成を得た。

参考文献

市川保子編 (2010) 『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』, スリーエーネットワーク, 434-439.

金庭久美子 (2018) 「メール文の自動評価に向けて—メール作成タスクの検討—」, 『日本語・日本語教育』, (1), 立教大学日本語教育センター, 37-53.

友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2007) 『どんな時どう使うにほんご表現文型辞典』, アルク, 185-186.

松岡弘監修 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, スリーエーネットワーク, 47-48.

陳小芬著 譚晶華編 (2014) 『日語総合教程』, 上海外語教育出版社.